



第4章 第2期計画における重点課題と取組の方向性

1 今後取り組むべき課題

第1期計画の取組を通して、また、平成21年度に実施した区民意識調査の結果やこれまで各地区で毎年開催してきている「地域懇談会」での意見、統計データ等により「**地域のつながりの希薄化**」や「**活動や取組の担い手の不足・固定化**」、「**家族以外の社会的支援が必要な人の増加**」が今後取り組むべき都筑区の課題として明らかになってきています。

○ 地域のつながりの希薄化

○都市化の進展による**転入者人口の増加**により、都筑区の人口は、平成6年の都筑区の誕生以来増加し続けています。また、区民意識調査では、近所との付き合い方について、「あいさつする程度」と「立ち話をする程度」が合わせて約7割という**希薄な近隣関係を示す結果**となっています。

○**地域の基盤としての自治会町内会の加入率が低下**しています。身近な生活課題を解決するための担い手不足や、未加入世帯へは情報が届きにくいなど**地域コミュニティの構築**にとって大きな課題となっています。

○地域課題を解決していくためには、地域住民、団体、学校、企業等地域の様々な主体が地域の課題を共有し、連携・協働していくことが必要ですが、**地域によっては、共有の場となる話し合いの参加者が固定化**してしまっていたり、話し合いが**具体的な取組に結びついていかない**などの課題があります。

○第1期計画において、災害時における要援護者支援や孤立しがちな高齢者の見守りの取組を実施している地域では、取組を通して、いわゆる「**向こう三軒両隣**」といった**自治会町内会の班（組）程度の範囲での関係づくりの必要性が再認識**されています。

○ 活動や取組の担い手の不足・固定化

○今後急速に進展していく少子高齢化により、庭の草刈、病院への付き添い等介護保険などの制度では対応できない**ボランティアに対するニーズが高ま**っていくことが予想されます。

○地域では、地域行事を通じた交流や活動に加え、「地域情報誌の作成」「災害時要援護者支援活動」「孤立しがちな高齢者の見守り」「子育てサロンの開催」など地域の課題解決に向けた主体的な取組が着実に進められました。このような**活動や取組を区全体に広げていく必要**がありますが、各地区での地域懇談会において、「役員を受けてくれる人が少ないので、固定化してしまっている。」「いつも参加するのは同じ顔ぶれ。」「若い世代や自治会町内会未加入世帯の参加が少ない。」などの意見が多くあげられています。また、新たな担い手の発掘、育成が進まないことなどにより、**活動や取組を支える担い手不足、固定化**が大きな課題となっています。

○若い世代をはじめ、定年退職を迎える世代や高齢者など**幅広い世代の活動や取組への参加促進が必要**となっています。

○ 家族以外の社会的支援が必要な人の増加

○核家族化とともに、「夫婦と子ども」世帯が減少し、「夫婦のみ」や「ひとり暮らし」世帯が増加していくなど、世代にかかわらず、世帯が小規模化していく傾向にあります。世帯構成の変化にともない、**これまで家族が担ってきた介護や育児等の機能が低下する中、家庭で子育てしている保護者やひとり暮らし高齢者、障害者など家族以外の社会的支援が必要な人が増えています。**

○必要な人に情報を届けることや、**地域のつながりから抜け落ちている人をどのように把握すればいいのかが大きな課題**となっています。

○民生委員児童委員は、「身近な福祉の相談役」として重要な役割を担っていますが、転入者の増加による新住民の割合が高いことなどにより、活動への理解が進まないことや地域によって負担感が大きいなどの課題があり、**活動しやすい環境づくりが必要**となっています。

○第1期計画では、「災害時要援護者支援」や「孤立しがちな高齢者の見守り」、「ちょっとした助け合い」などの**必要な人への支援の取組が行われた地域がありますが、さらに多くの地域へ取組を広げていく必要があります。**

2 第2期計画における重点課題と取組の方向性

第2期計画では、明らかになってきた都筑区の課題に的確に対応できるよう、**①地域のつながりの希薄化、②活動や取組の担い手の不足・固定化、③家族以外の社会的支援が必要な人の増加を「重点課題」として位置づけ、次の「3つの方向性」に基づき、取組を進めていきます。**

【重点課題①】⇒【取組の方向性1】顔の見える地域づくりを進めます

転入者の増加、近隣関係などの価値観の多様化、自治会町内会加入率の低下などにより**地域のつながりが希薄化**しています。

地域での「つながり」を大切にして、地域住民をはじめ地域の様々な主体が、連携・協働し、地域課題の解決に取り組んでいけるよう顔の見える地域づくりを進めていきます。

【重点課題②】⇒【取組の方向性2】幅広い区民参加で活動や取組の輪を広げます

今後の少子高齢化の進展により、ボランティアに対するニーズが高まる一方、**活動や取組の担い手が不足・固定化**しています。

地域の課題解決に向けた主体的な取組を区全体に広げていくとともに、ボランティアニーズへ対応していけるよう幅広い区民参加により、活動の輪を広げていきます。

【重点課題③】 ⇒ 【取組の方向性3】 必要な人に支援が届く仕組みづくりや取組を進めます

家族機能が低下する中、家族以外の社会的支援が必要な人が増えています。近所づきあいのほとんどない人も見られ、支援が必要な人がますます把握しにくくなっています。

支援が必要な人の把握や、情報提供のあり方等について検討を行い、誰もが支援を受けられるような仕組みづくりや取組を進めていきます。

